

イセエビ幼生の飼育技術の向上！

～生産した稚エビの放流試験を開始～

日本では沿岸漁業の重要な対象種であるイセエビ資源の増殖に用いる**稚エビを人工的に生産するための幼生飼育研究**が長年実施されてきました。しかし、イセエビの幼生は清浄な沖合域で生育することから飼育環境下では疾病にかかりやすく、また飼育に適した環境も不明で、幼生を安定して飼育することが困難でした。水産研究所では、**新型水槽の導入や飼育環境の改善など幼生飼育技術の向上に努め、飼育の効率化や幼生の疾病発生の軽減、成長改善を実現し、放流用稚エビの生産も可能となりました。**

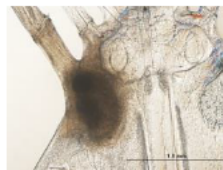


県のさかな「イセエビ」



イセエビの幼生

これまでの課題



病気のイセエビ幼生(触角基部の壊死)

- 飼育するイセエビ幼生の疾病の防止
- 1年近い長い幼生期の短縮
- 繊細な体を持つ幼生に適した飼育水槽の開発

課題の解決

幼生の生残と成長の改善

得られた成果



稚エビ

1. 新しい水槽の導入

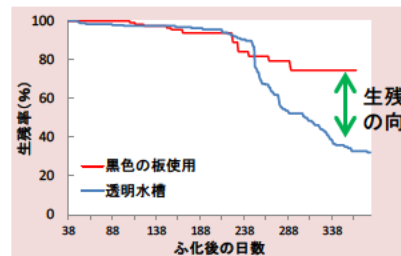


新しい太鼓型水槽

2. 飼育環境の改善



黒い板を使用した飼育の様子



黒い板を使用した場合としない場合の生残率の推移

- 水族館でクラゲ等の飼育に用いられている太鼓型水槽の導入で飼育効率・生残が向上

- 太鼓型水槽の側面を黒い板で覆うことで幼生の成長が改善し、幼生期の生残率も更に向上
- 疾病の発生も軽減



放流試験に用いる稚エビ

放流用種苗の生産が可能に

課題

- 現時点では疾病の発生が時折見られ、飼育成績に安定性がないことが課題。疾病の防止対策を更に進め、飼育の安定化を目指します。

(2016年3月発行)



三重県水産研究所 沿岸資源増殖研究課

Mie Prefecture Fisheries Research Institute

〒517-0404 志摩市浜島町浜島3564-3

TEL (0599)53-0016

FAX(0599)53-2225